

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

中尾 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率をやや上回っている。 ・漢字の読み書きは、もう少し練習が必要である。
	よくできた問題	文と文の意味のつながりを考えながら適切なものを選択したり、文章に書かれている内容と合うものを選択したりする問題で正答率が高い。
	努力が必要な問題	故事成語の使い方について適切なものを選択できていない。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回っている。 ・文章を読み、問題に即して、自分の考えを書くことに課題がある。
	よくできた問題	2つの詩を比べて考えたことを書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	登場人物の考えを読み取り、適切なものを選択する問題が正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を上回っている。 ・「数と計算」領域での正答率が高いが、応用力が必要な問題での正答率が低い。
	よくできた問題	整数や小数の四則計算での正答率が高い。
	努力が必要な問題	平行四辺形のかき方について、条件を選ぶ問題の正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均をわずかだが、下回っている。 ・数量や図形についての知識・理解が高くなり、応用できるようになった。
	よくできた問題	答えの求め方を説明する問題での正答率が高い。
	努力が必要な問題	答えを導き出すために必要な資料を選ぶ問題での正答率が低かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

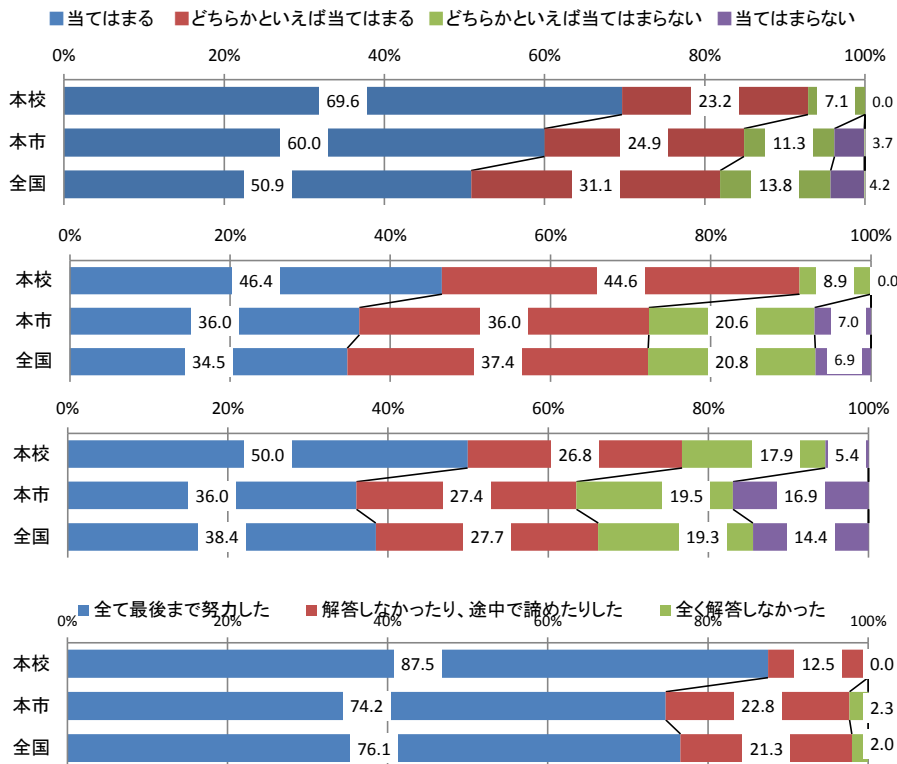
質問番号
質問事項

44
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う

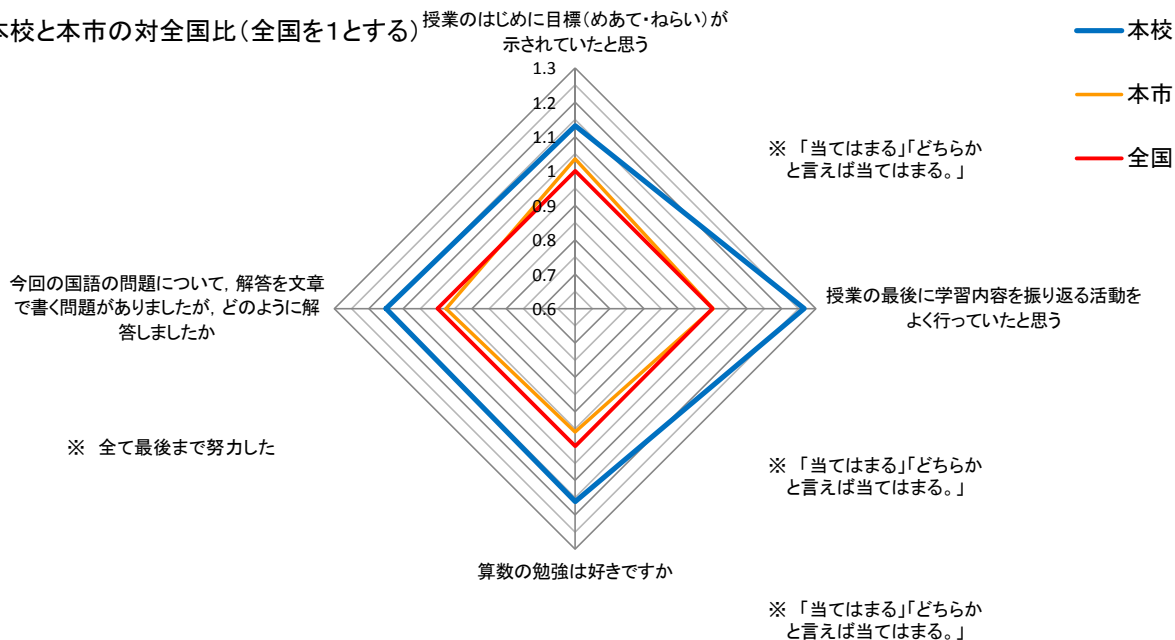
45
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う

62
算数の勉強は好きですか

59
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



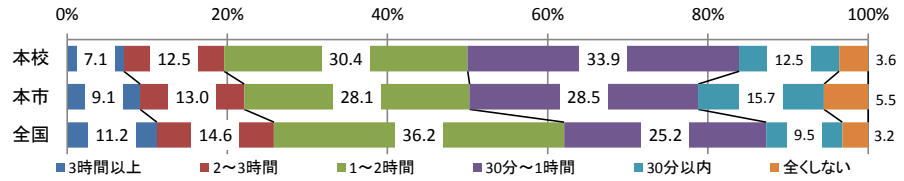
⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・学習の始めに本時のめあてがきちんと示され、学習のおわりにまとめや振り返りが行われていると感じている児童が多い。大切なことなので、今後も学校全体で推進していく。
- ・今後は応用力を高めるため、学習の中での話し合いや練り合う活動を充実させていく。
- ・算数や国語の学習が好きで、必要なものだと感じ、意欲的に学習を進めようとする態度が、よい結果となって表れている。
- ・無回答が極端に少なく、何らかの答えを見出そうとする態度がよい。

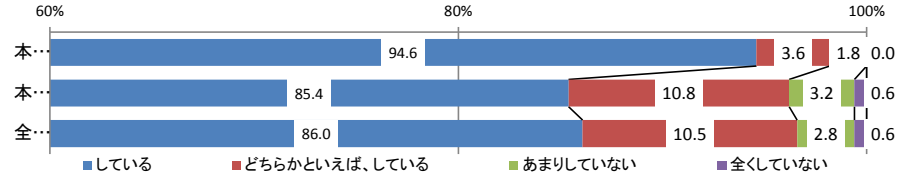
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

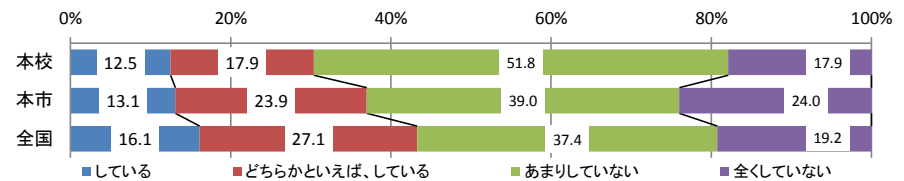
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



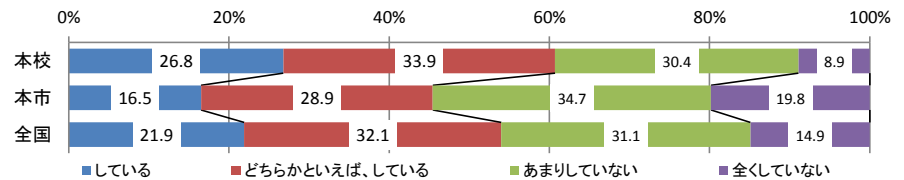
22
家で、学校の宿題をしていますか



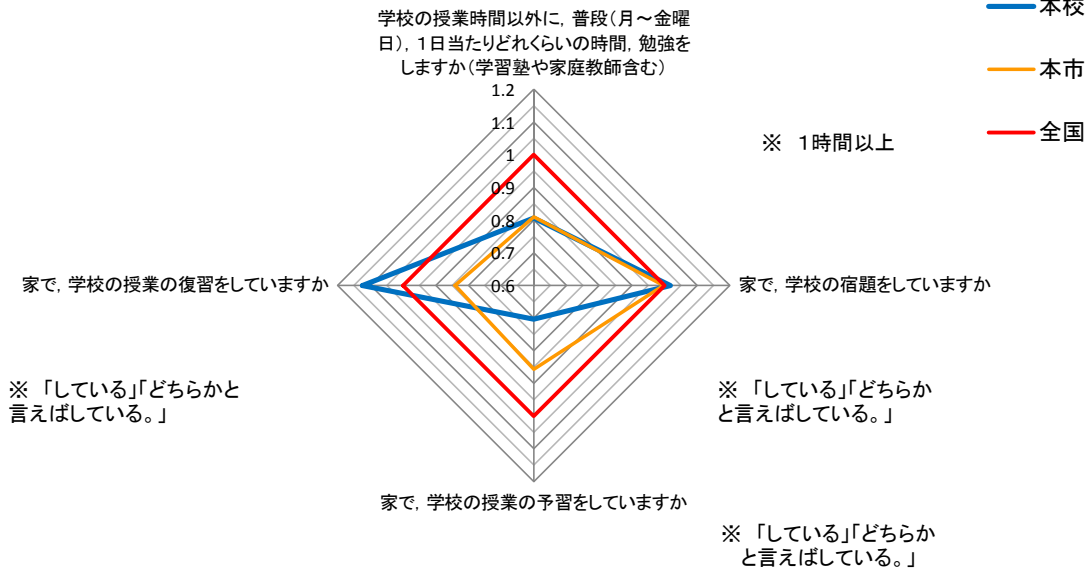
23
家で、学校の授業の予習をしていますか



24
家で、学校の授業の復習をしていますか



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

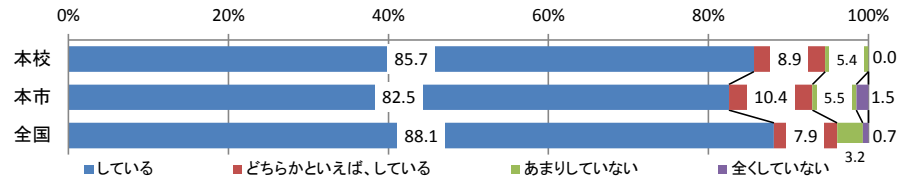


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

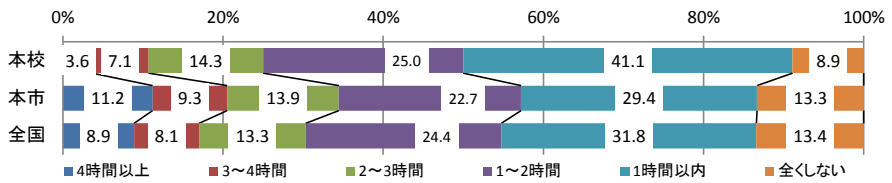
- ・家庭での学習時間は、それほど多いわけではないが、全く学習しないという児童が少なく、家で学校の宿題をしていることがよい。
- ・家庭での学習をほとんどしないという児童の変容が望まれる。
- ・家庭で、予習もするが特に復習に力を入れていることがよい。

④ 生活習慣等に関する調査結果

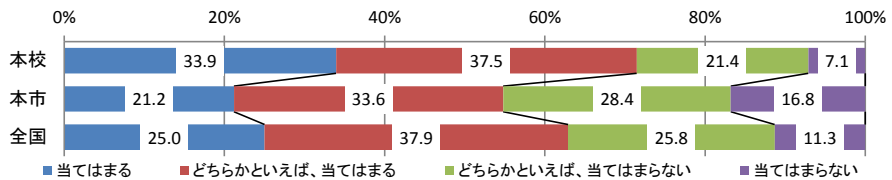
1
朝食を毎日食べていますか



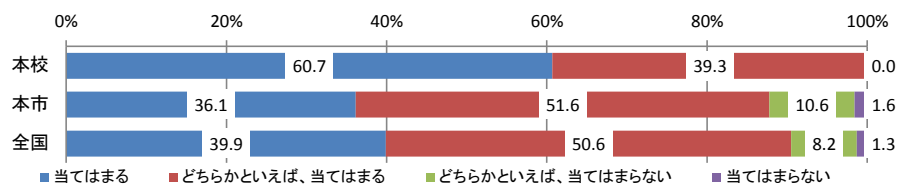
12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



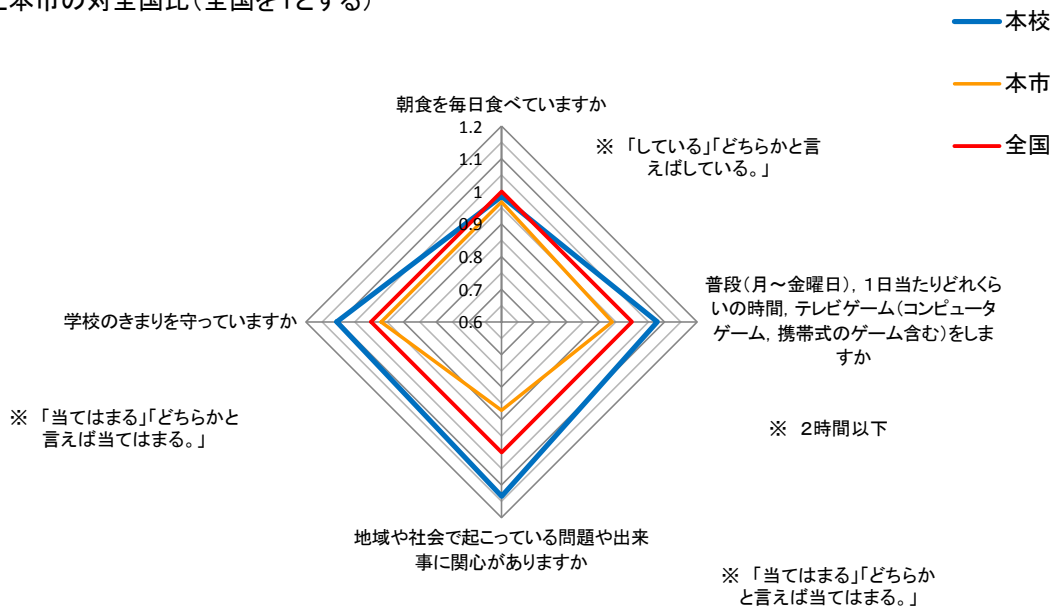
30
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



34
学校のきまりを守っていますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・朝食を食べている児童の割合が多いことは、学習に集中できる要素の一つとして望ましい。
- ・学習に集中できる要素として、安心して生活できる環境も大切である。学校のきまりを守り、きちんとした態度で生活しようとする態度がよい。
- ・ゲームに使う時間も、全国を下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・中尾タイム(掃除時間後の10分間)で全校一斉に漢字や言葉の学習、計算などを行う。
 - ・火曜日の音読タイム(朝自習)、木曜日の読書タイム(朝自習)、木曜日の視写タイム(中尾タイム)を実施する。
 - ・休み時間に、その月の音読暗唱を校長・教頭・教務で聞き、合格シールや賞状を渡す。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎基本の徹底を図る。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- 学習指導の工夫
 - ・学習の際の話型やノートのとり方を学校内で統一して指導する。
- 重点的な取組
 - ・考えさせる授業、児童が互いに考えを出し合い練り合う授業を目指す。

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・自主学習ノートの活用
 - ・家庭学習時間の設定
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
 - ・引き続き、家庭学習の大切さを呼びかけ、保護者の協力を求める。